

第687回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 肱川緊急治水対策 [四国地整]

大洲市東大洲

- 平成30年7月豪雨により甚大な被害を受けた肱川流域では、再度災害防止を図るため国・県・市が連携し、ハード・ソフト一体となった「肱川緊急治水対策(つなごう肱川プロジェクト)」を推進している。
- 国においては、肱川緊急治水対策に位置付けられた、ハード整備の根幹となる「河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)」として肱川中下流部の15地区(約6.9km)の堤防整備を強力に進めている。
- 肱川の堤防整備では、整備途上における上下流の治水バランスを保つため、完成堤防より低い暫定堤防が7地区点在しており、その中の一つで今回の激特箇所位置付けられている東大洲箇所は、肱川の治水計画の最重要箇所、過去の平成7年洪水激特事業で暫定堤防の整備、その後、大洲市による二線堤の整備、今回の激特事業による完成堤の整備へ至った歴史を現場で見ることができる。



2 (主) 小田河辺大洲線 鹿野川バイパス [愛媛県]

大洲市肱川町

- 平成30年7月の西日本豪雨を踏まえ、「肱川緊急治水対策」として、激特事業による堤防整備などと合わせ、国施工の山鳥坂ダム建設事業が進められている。
- 山鳥坂ダムの建設・湛水により必要となる県道小田河辺大洲線の付け替えを、国と県が工区を分担して実施。全長約7.7kmを3工区に分け、ダムが建設される中間工区(約6.2km)は、国へ工事委託し整備中。
- 県は、分担している2工区のうち、最上流部工区(約0.5km)を完成させ、残る最下流部の鹿野川バイパス工区(約1.0km)を現在整備しているところ。鹿野川バイパスのうち、トンネル(526m)は概成しており、今後、電気設備等を施工。現在は、トンネルに接続する新鹿野川橋(90m)の上部工を施工中。



3 八幡浜港フェリーターミナルふ頭再整備事業 [八幡浜市]

八幡浜市出島

- 八幡浜港は、四国、九州の高速道路網とフェリーを組み合わせ「九州・四国・関西を結ぶ新たな国土軸」としての役割を担っている。
- 既存施設は老朽化が進み、フェリーの大型化への対応、耐震機能の強化を目的に整備。
- 将来、大型化したフェリーが係留可能なフェリー棧橋と可動橋を整備。
- フェリー棧橋は、南海トラフ地震M9の震災後に防災拠点として、緊急物資等の海上輸送が可能で、棧橋上に耐震性能を有したバリアフリー整備ガイドラインの基準を満たしたスロープを整備。
- ターミナルビルは、耐震性能を有した津波避難ビルで、地域性を考慮した段々畑をイメージしたデザインが特徴となっている。
- ビルからフェリーに乗り込むまでの経路に階段が全く無く、高齢者や車いすの方だけでなく、キャスト一付キャリーケース、ベビーカーを使用するすべての人に優しい構造とした。

